大学文書館へ行こう

第19回「北海道大学百五十年史」

北海道大学大学文書館　井上　高聡

盟休！事件！經過！
文武會問題に絡はり
本學未曾有の紛糾
數名の放學處分から
文武會解散を決議

文武会事件を報じる1929年1月2日付け
「北海道帝国大学新聞」

『北海道大学百五十年史』刊行開始

北海道大学は二年後の二〇二六年、一八七六年の札幌農学校開校から数えて百五十周年を迎えます。これまで、大学が主体となり五十年史、八十年史、百年史、百二十五年史と大学史を編集・刊行してきました。現在、大学文書館の中に「北海道大学百五十年史編集室」を設置し、『北海道大学百五十年史』を編集しています。編集の準備開始から六年が経ちますが、ようやくこの三月、一冊目として、「資料編一」を刊行します。

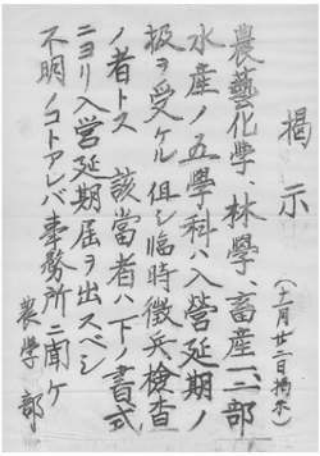
「資料編一」の内容

『北大百年史』では資料編として「札幌農学校史料」二分冊を刊行しました。札幌農学校時代（一八七六～一九〇七年）とその前史の資料を収録しています。『北海道大学百五十年史』資料編一はその続編として、札幌農学校時代の大学昇格運動から、第二次世界大戦終結まで、一八九八～一九四五年の四十七年間の資料を編年で収録しました。

大学史の資料編では、法令や学内規程などを中心に収録することが多いのですが、今回の「資料編一」では、大学の意思決定機関である評議会の議事録や、各学部教授会議事録からの記録を多く収録しています。制度・組織として帰結した形だけではなく、構想段階や途中の計画変更など、制度・組織の形成・変遷経過に関する記録を重視しました。例えば、低温科学研究所が設置されるまでの構想の変化です。また、戦争のために政府が学生・生徒の修業年限が短縮した際や、臨時徴兵検査・学徒出陣が決まった際の大学側の対応を示す資料などです。

また、法令や大学の公的な記録からは掬い取れない、学生生活の様子や課外活動などは、新聞部として学生が発行していた大学新聞、校友会誌、同窓会誌などの記事から収録しました。例えば、北大生がストライキに打って出た一九二八年「文武会事件」や、学部とは別のコースとして大学が附設していた実科・専門部の独立運動などです。このほか、恵迪寮生の日誌から一九四五年八月の終戦時の学内の様子を抜粋しています。

大学の制度・組織の変遷だけでなく、時代時代に大学が抱えた問題、北大生の生活の様子などを資料で示したつもりですが、ページ数の問題で充分に収録できませんでした。関心のある方は図書館等で手に取ってみて下さい。後日、HUSCAPにてWEB公開もする予定です。


掲示
（十月廿三日掲示）
農藝化學、林學、畜産、二部
水産ノ五學科ハ入營延期ノ
扱ヲ受ケル但シ臨時徴兵檢査
ノ者トス該當者ハ下ノ書式
ニヨリ入營延期屆ヲ出スベシ
不明ノコトアレバ事務所ニ問ケ
農學部

臨時徴兵検査に関する農学部の掲示
（1943年11月22日）

「創基」と言葉

ところで、北海道大学では「創立」や「開校」や「開学」ではなく、「創基百五十周年」というように「創基」という言葉を用います。これは、一九二六年の創基五十周年以来です。当初、「創基」を用いる大学は北大くらいでした。

北海道大学は、前身校の開拓使仮学校（一八七二～七五年）、札幌学校（一八七五～七六年）を含め、札幌農学校（一八七六～一九〇七年）、東北帝国大学農科大学（一九〇七～一九一八年）、北海道帝国大学（一九一八～一九四七年）、北海道大学（一九四七年～）と改称しています。改称時には大学組織にも大きな改編があり、リ・スタートを繰り返してきたと言えます。

創基50周年に建立したクラーク胸像と札幌農学校第一期生（1926年5月14日）

そのことをよく示しているのは、いわゆる「創立記念日」の変転です。東北帝国大学農科大学時代は、大学昇格を定めた法令の公布日六月二十二日を大学記念日としました。北海道帝国大学となった後は、農・医二学部と大学独立を定めた法令の制定日二月六日に改めました。戦後、創基八十周年の際には、札幌農学校開校日八月十四日を記念日とし、現在に至ります。

そのため、「創立」「開校」「開学」は使いづらく、「創基」という耳慣れない用語を引っ張り出してきたわけです。しかし「創基」はなかなか便利な妙案であったようで、近年、前史を重視するようになった大学の多くが用いるようになってきています。